

指定管理施設（総合福祉センター）事業評価表
障害者福祉センター事業分

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		平成30年度の実施状況		令和年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					H30年度	R1年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)		
社会生活適応訓練	1	がんばんろう会 ◇主に知的障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	48	毎週月曜 (第4月曜 午後を除く)	・自立して生活ができるよう、自主性を尊重。 ・利用者同士の話し合いにより活動内容を決めて実施。 ・レクリエーションを交えながら活動することで、仲間づくりや社会ルールを身に付ける。 ・買い物に出掛けたり、簡単に出来るおやつや昼食作りをする事で、生活する力を身につける。 ・屋外活動を体験する事で、社会ルールを学ぶ。	4	4	40	470	38	491	△ 2	21	・作品作りにおいて、参加者それぞれができることを自主的に決め、活動ができるように支援した。個人の作品において、細かい作業が多く手先を使うことができた。 ・参加者の意見から、グループ活動を取り入れた。お楽しみ会に向け、グループで行いたい活動を話し合い、公共交通機関を利用した移動を行うなど社会性を身につける活動を実施し好評を得た。 ・3月の教室閉鎖により実施回数が減少した。
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	24	第2・4水曜	・仲間と一緒に出来る事の楽しさを知る。	4	4	25	218	24	330	△ 1	112	・参加者の意見から視覚障がい者生活支援センターの「アソシア」と連携をとり、生活必需品やレクリエーション道具を実際に使ったり、歩行訓練を体験できる活動を取り入れた。最新の機器を実際に触ってみれる活動は人気であった。
	1	ふれあい ◇主に重度心身障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練 ・音楽療法	48	毎週木曜	・意欲と能力に応じて生活を送れるよう支援する。 ・自立支援や仲間作りをする。	4	4	47	587	46	641	△ 1	54	・四季にあわせた野菜を使い、季節を感じていただいた調理実習を行った。それぞれができる活動を支援した。 ・作品作りを通し、四肢の機能維持と日常生活の訓練を行った。 ・講師による音楽療法は、非常に人気が高かった。
	小計		120	—	—			112	1275	108	1462	△ 4	187	
創作活動	1	俳句教室 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午前	・自分の気持ちを俳句で表現することにより自分を見つめ直す事を目的とする。	4	4	19	173	22	180	3	7	・最近テレビ番組で俳句が取り上げられている影響もあり、教室の登録者数が増加傾向にある。 ・年度内に数回、外部機関への作品投稿を行っており、それを目標に積極的に取り組む姿勢が見られた。
	1	絵手紙	12	第4火曜 午後	・自分の作品を作るとともに、他の参加者の作品と比較し交流を深める。	4	4	12	92	10	105	△ 2	13	・講師に指導を依頼し、教室活動を行った。 ・参加者の中でも、技術のレベルが高い利用者があり、お互いに教えあいながら活動に取り組む姿が見られた。 ・絵手紙の題材は利用者が持ち合う形で活動を行っている。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		平成30年度の実施状況		令和年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					H30年度	R1年度								
創作活動	1	切り絵	24	第1・3水曜 午前	・細かい作業をする事で指先のリハビリにつなげる。 ・完成した時の喜びを期待する。	4	4	23	130	22	155	△ 1	25	・個人の制作活動として、継続して活動を続けている。手先の機能維持を目的に教室活動に取り組む姿が見られた。参加者同士で色付けなどの過程で話し合いながら進める姿も見られた。
	1	ちぎり絵	12	第4月曜 午後	・誰でも参加できる簡単な画材から始め表現力・集中力・根気さと指先のリハビリに繋げる。	4	4	11	49	9	46	△ 2	△ 3	・ボランティア講師の指導のもと、季節の花や干支の飾りなどを新聞紙の広告部分を用いて制作した。 ・細かい作業が多いため、こまめに休憩を入れながら一人一人のペースで進めることができた。
	1	サロン	12	第2火曜 午後	・簡単なおやつ作りや、軽スポーツ・買物等誰でも参加でき、仲間と一緒に楽しむ。	4	4	12	88	10	87	△ 2	△ 1	・簡単なおやつ作りや個人、グループ対抗で行うレクリエーションなど、参加者の意見をもとに誰もが楽しめる企画で交流した。 ・年に2回程度行う買い物事業において、今後は参加者への支援方法を検討しなければならない。
	1	自主活動日	12	第1金曜 午後	・誰でも自由に来館し、他の利用者と交流をはかりながら、各々のしたいことに取り組む。	5	5	10	31	10	54	0	23	・個人の制作活動やスポーツの大会に向けての練習を行うために利用する参加者が多かった。 ・自宅では行いにくい制作活動も、自主活動日にははかどるなど意見を聞くこともできた。
	小計			96				87	563	83	627	△ 4	64	
スポーツ・レクリエーション	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・スポーツ活動	12	毎週月曜日 (第4月曜 午後を除く)	・健康の維持増進と身体機能の向上、社会性や協調性を養う。	4	4	2	16	7	56	5	40	・児童センターの遊戯室を借りてバドミントンを行ったり、太平公園でグランドゴルフを行ったりした。 ・散歩などの軽微な運動を、様々な活動に取り入れているが実施日のイベントになっていないため、示された実施回数は7回であるが、実際の活動は月2回程度のペースで行った。
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・リズム体操 ・講師の指導により実施	12	第2月曜 午後	・身体を使ってエネルギーを発散する。 ・仲間と同じ目的に向かって行動する。 ・発表の機会を設けて、達成感を味わう。	4	4	12	87	11	80	-1	-7	・講師の指導のもと、音楽に合わせて体を動かした。思いっきり体を動かせるため、ストレス発散にもなり好評である。 ・参加者の意見から、デイサービスでリズム体操を披露する発表会も実施した。
	1	サウンドテーブルテニス ◇主に視覚障害者対象	12	第4水曜 午前	・視覚障害者の方にとって楽しみにしているスポーツであり、仲間と楽しむ。	4	4	12	72	11	77	△ 1	5	・音を頼りに行う視覚障がい者向けの卓球を毎月1回行っている。 ・回数を重ねるうちに、打ち返すことができるようになったなど、成長を感じることができたという参加者もいた。
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第4水曜 午後	・音楽を楽しみながら、嚙下や身体の機能向上を図る。	4	4	10	59	11	83	1	24	・懐かしの唱歌や紅白歌合戦でピックアップされた曲など、様々な歌と触れ合え人気の教室である。 ・参加者が自宅からオカリナやハーモニカ、フルートなどを持参し、伴奏に合わせた音色を披露することもあった。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成30年度の実施状況		令和年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H30年度	R1年度							
スポーツ・レクリエーション	1	3B体操 ・講師の指導により実施	24	第2・4火曜 午前	・楽しく運動機能の維持を図る。	4	4	24	115	20	126	△ 4	11	・講師の指導のもと、懐かしの唱歌や最新の局に合わせて座ったまま行える体操を行った。 ・普段は使わない部位の筋肉を使っていることがわかるという意見を聞くことができたため、機能向上につながっていると思われる。
	1	風船バレー	24	第1・3金曜 午前	・楽しみながら身体を動かし運動不足の解消と身体機能の維持を図る。	4	4	24	126	21	81	△ 3	△ 45	・2チームに分かれ、風船バレーで対決をしながら、身体の機能維持、向上につながる運動を行った。守備位置も参加者が活躍しやすい場所にするなど配慮した。 ・就労や高齢化により参加者が減少している。令和2年度より月2回であった風船バレークラブを月1回とし、減少した活動は運動系の教室であるポッチャを新たに始める予定である。
	1	軽スポーツ ・機能訓練 ・理学療法士の指導により実施	24	第1・3水曜 午後	・理学療法士の指導のもと専門的に身体機能の維持を図る。	5	4	23	156	22	173	△ 1	17	・理学療法士の指導のもと、身体の機能維持、向上を目的に教室を実施している。 ・転倒時にけがをしにくくするような運動や、日常生活に必要な基礎となる筋肉に刺激を与える運動など、専門的な視点から見た活動を行った。
	1	音楽療法 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午後	・精神的安定と嚙下機能の向上を図る。	4	4	22	134	22	158	0	24	・懐かしの唱歌や紅白歌合戦でピックアップされた曲など、様々な歌と触れ合え人気の教室である。 ・一人1曲程度、参加者のリクエストにこたえた曲を活動内に取り入れた活動を行っている。参加者は大きな声でうたうことができるのは、貴重な機会となっているため、ストレス解消にもなり、心身の健康維持につながっていると思われる。
	1	ヨガ教室（イス） ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午前	・車椅子の方やマットに横になれない方を対象とする。	4	4	24	162	21	160	△ 3	△ 2	・ヨガ教室は身体機能に合わせて参加ができるよう、イスヨガとマットヨガの2講座を行っている。 ・参加者の中には、身体管理のもとイスヨガとマットヨガを行き来することもあった。現状ではこのような対応ができる教室は、ヨガ教室だけである。今後の教室活動の変革がある際に、柔軟な対応が取れるような活動内容とする参考になる可能性が高い。
	1	ヨガ教室（マット） ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午後	・自分に合った動きと呼吸により、身体機能の維持と精神の安定を図る。	4	4	24	155	21	116	△ 3	△ 39	
	小計			192					177	1,082	167	1,110	△ 10	28
更生相談	1	障がい者にかかる相談全般	12	随時	・身体状況、生活状況、福祉制度等の相談や介護方法の助言を行う。	4	5	随時	25	随時	38	随時	13	・気軽に相談ができる場として認知度を上げるため、H30年度から月に1回相談日を設けている。 ・認知度が上がってきているためか、相談件数が増加した。特に、電話相談の件数が増加傾向にあった。
	小計			12					0	25	0	38		13
リハビリ指導	1	リハビリ指導	96	毎週水・金曜 午前	・身体機能の保持、機能回復を支援する。	5	4	95	372	82	310	△ 13	△ 62	・鍼灸マッサージ士による機能回復及び維持を目的とした身体リハビリを毎週水曜日と金曜日に実施した。 ・専門的なアドバイスもあり、利用者に非常に好評であった。
	小計			96					95	372	82	310	△ 13	△ 62

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		平成30年度の実施状況		令和年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					H30年度	R1年度								
送迎サービス	1	送迎サービス		随時	・通所が困難な方を対象とし、自宅までの送迎を行う。	4	4	243	2,780	230	2,496	△ 13	△ 284	・教室の参加者で自力または家族送迎が困難な方に送迎サービスを実施した。 ・利用者自身の高齢化、介助者の高齢化とともに、送迎を必要とする利用者が増えてきている。今後の送迎事業における対応方法を検討する必要がある。
	小計		0					243	2,780	230	2,496	△ 13	△ 284	
その他	1	障がい者レクリエーション交流会 障害者福祉センターまつり	2	7月 1月	・誰でも参加できる軽スポーツ等で障がい者、介護者、ボランティアの交流を図る。 ・障害者福祉センターの幅広い周知	5	5	2	326	2	255	0	△ 71	・令和元年度はバスツアーを1回にし、新規事業として「障害者福祉センターまつり」を実施した。これまで、当センターの活動内容などを知らなかった人へ向け、PRを行うことができた。 ・3月に開催予定であった「第2回障がい者レクリエーション交流会」が、教室閉鎖に伴い中止となったため、開催回数は平成31年度と変わっていない。
	1	障がい者バスツアー	2	9月	・日ごろ外出する機会の少ない障がい者の方へ外出する機会を提供し、家族、友人、ボランティアと一日楽しく過ごす。	4	4	2	98	1	30	△ 1	△ 68	・令和元年度よりバスツアーの回数を1回とした。 ・県内の障害者施設で作られた作品展の鑑賞へ行き、当センターから出品した作品と他施設の作品が比較でき、参加者の満足度の高い企画となった。 ・バスツアーの回数は減少したが、新規事業として「障害者福祉センターまつり」を実施した。
	1	季節行事	随時	随時	・伝統、文化の継承	5	5	14	124	16	251	2	127	・福祉センターの様々な部署と合同で行うハロウィン会や、クリスマス会など利用者からの提案で積極的に参加した。 ・豆まきでは鬼役を福祉センターの職員に利用者が依頼しにく姿など、自主性が見られた。
	1	福祉体験	6	随時	・福祉体験、福祉講座を行う事により、障がい者への理解を深めてもらう。 ・将来の福祉人材育成のきっかけ作り。	4	4	9	524	11	565	2	41	・市内の小中学校の依頼により、小学校や児童館で福祉体験を行った。 ・小学校では車椅子の解除方法や乗降の体験、児童館では実際に障害者福祉センターで行っている障がい者向けのレクリエーションを行った。
	2	障がい者団体意見交換会	1	5月	・各障がい者団体が一同に意見交換をし、事業の参考にする。	4	4	1	11	1	12	0	1	・市福祉課、障がい者団体の代表者と情報交換をした。団体に、障害者福祉センターの行事の協力依頼をした。
	2	交流事業	5	随時	・複合施設の利点を活かすとともに、社協が運営する他施設との交流を図る。	5	5	8	62	13	399	5	337	・月一回以上の交流活動ができるよう、他部署と連携した。 ・複合センターの強みを活かし、児童センター、老人センター、デイサービスと母子父子センターと交流を行った。季節行事などで交流することが好評であった。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		平成30年度の実施状況		令和年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					H30年度	R1年度								
その他	2	単発教室	3	随時	・通常のセンター利用者だけでなく、広く市内全体に公募し利用者拡大を図る。	4	4	3	23	2	13	△ 1	△ 10	・恒常的に利用していないが、障害者手帳を持った方であれば誰でもが参加できる教室を開催した。 ・手軽にできる料理教室と体操系の教室を開催し、どちらの教室も参加者から好評であった。 ・介助者の同席もあり、他の利用者に繋げることができる期待を感じられた。
	2	土曜教室（ふれんど）	12	第3土曜	・障害者の事業所を利用している方などの余暇活動と仲間作りの機会を提供する。	4	4	12	111	11	95	△ 1	△ 16	・平日に就労支援施設で働いている知的障がい者を対象者として活動している。 ・月一回の活動を楽しみにしている参加者が非常に多かった。 ・令和2年度より、簡単調理実習など活動の幅を広げるために午前の活動へと変更する。 ・3月の教室閉鎖により実施回数が減少した。
	小計		31					51	1,279	57	1,620	6	341	

(留意事項) ※「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。

平均値比(注) 105%以上：5点、105%未満～95%：4点、95%未満～85%：3点、85%未満：2～0点